

人材育成と地域における健康

(国の基本的な方針)

人々の健康は、その人を取り巻く社会環境に影響を受ける。

社会活動への参加は社会とつながる一つ的手段であり、地域コミュニティとの関わりが希薄化している現代において、社会活動への参加を促していくことは、健康づくり対策においても重要である。

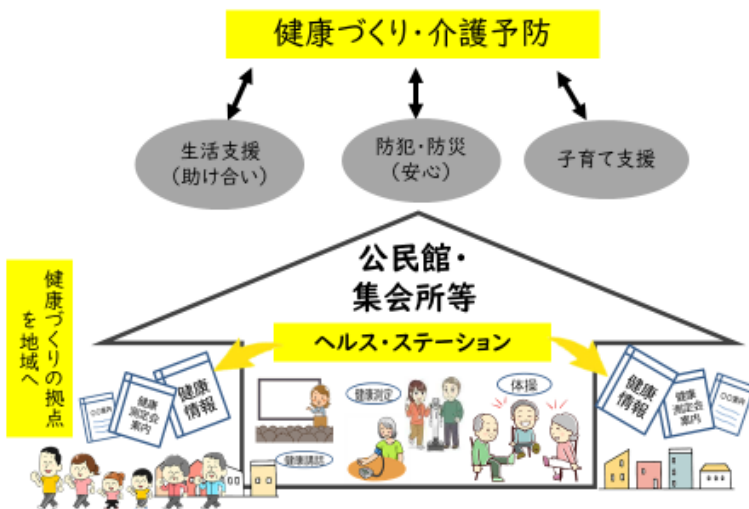
健康日本21(第二次)では、社会活動の対象を健康目的に特化したものに限定していたが、健康目的に特化しない様々な社会活動への参加も結果として健康増進につながるということが研究で報告されている。このことから、様々な社会活動への参加を国民に推進していく必要があり、「いずれの社会活動(就労・就学を含む)を行っている者の割合の増加」を目標として設定する

【第3次における取組】

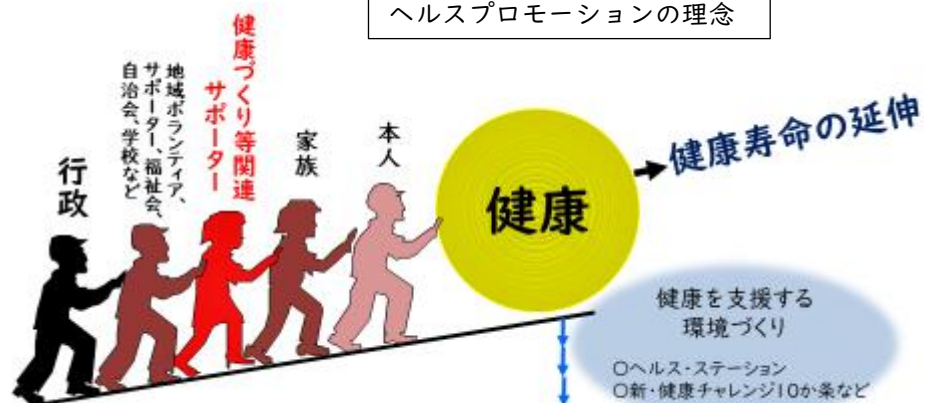
☆全世代に共通する「健康」に着目し、健康の視点から人材育成及び地域活動の活性化を図る

- ・社会的なつながりを持つことは、精神的健康、身体的健康、生活習慣、死亡リスク等に良い影響を与える。そのため、地域の課題を健康の視点から解決する「ヘルス・ステーション」の推進により、様々な人々と交流する機会や社会活動に参加するきっかけをつくり、地域に根差したソーシャルキャピタルの醸成を促す。
- ・市民が主体的に地域などにおいて、健康づくり活動の担い手として参加できるように健康づくり等関連サポーターの人材育成に取り組んでいく。
- ・新たに見直した健康チャレンジ 10 か条を取入れた活動を、地域や健康づくり等関連サポーターが行うことにより、多くの市民に健康チャレンジ 10 か条の周知啓発を図り、個人の 10 か条の実践、習慣化を図る。

「健康」を入口に、安心して生活できる地域づくりへ



ヘルスプロモーションの理念



(島内1987, 吉田・藤内1995を改変)